

デジタルラボトリーの未来展望



有限会社 セラモテックシステム
代表取締役 森 亮太
福岡県歯科技工士会
北九州支部 所属

抄録

将来を予想する前に今から5年前のラボの様子を思い返してみた。スキャナは有ったが、インプラント技工が大半でジルコニアの補綴物も始まったばかりのころであり。まだまだ普及しているとは言いがたい状況であった。現在私のラボではインプラント技工はジルコニアが大半で全てのインプラント技工はCAD/CAMを利用して製作している。

インプラント以外の自費補綴物も予想通りジルコニアがメタルボンドの数量を上回ってきた。今現在、CAD/CAMを使用して製作される補綴物の精度も5年前と比べると、その進歩の速さと普及の進み具合には驚かされるものがある。

5年後、10年後の歯科技工を考えると、かなりのスピードでデジタル化が進んでいるのではないと思う。あっという間にブラウン管テレビが消え、液晶テレビに置き換わったように、もし口腔内スキャナが保健適用になったら、あっという間にワックスアップや製造を行うことが無くなっているのかもしれない。

また歯科技工士の減少が危惧され始めたのも6年前くらいであろうか。

この人手不足もデジタル化を急ぐ後押しになるであろう。

ここ2～3年歯科技工士学校の卒業予定者の10倍ほどの求人が来るそうである。

このため就職時には売り手市場で、自分にとって良い職場を選ぶことが出来るはずである。

しかし25歳未満の歯科技工士の離職率が79%に達している現状を踏まえると、就職の前に色々なラボを見て比べることができるインターンシップなどの制度が必要と思われる。

当社では見学に来た方が全員が就職したくなるようなラボを目指し2年前移転を行った。

当社で行ったラボの職場環境の改善とデジタル化が一層進んだ5年後、10年後の歯科技工士に対応できる設備と技術の一端を紹介したいと思う。